

植松 努(うえまつ つとむ)氏プロフィール

【現在】

株式会社植松電機 専務取締役

株式会社カムイスペースワークス 代表取締役

NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC) 理事

1966年 北海道の芦別市で生まれる。

子供のころから紙飛行機が好きで宇宙にあこがれ大学で流体力学を学び、名古屋で航空機設計を手がける会社に入社する。

1994年 実家のある北海道へ戻り、父(植松清)が経営する植松電機へ入社後、産業廃棄物からの除鉄、選鉄に使う電磁石の開発製作に成功する。

1999年 コンクリート圧砕機用アクティブマグネット方式を考案する。

2004年 カムイ式ロケットの研究を進めていた北海道大学大学院の永田教授に出会う。
宇宙のことを楽しく学ぶ子供たちのためのスペースキャンプを開催する。

2005年 青年版国民栄誉賞「人間力大賞グランプリ」を受賞する。
北海道大学とカムイ型ロケットの共同研究を開始する。

2006年 植松電機敷地内に微小重力実験塔が完成する。
人工衛星「HIT-SAT(ヒットサット)」の開発に携わり打ち上げに成功する。
株式会社カムイスペースワークス設立 代表取締役に就任する。

2007年 カムイロケット250sの打ち上げ実験で到達高度3500mを達成。

2008年 カムイロケットを1年間で18機打ち上げる。
小中学校の工場見学／体験学習業務を本格化し始める。

2009年 宇宙航空研究開発機構(JAXA)と共同で打上げ実験を実施する。
ARCプロジェクトの開始準備を始める。

2010年 ARCプロジェクトを開始する。

全国各地での講演やモデルロケット教室を通じて、人の可能性を奪う言葉である「どうせ無理」を無くし、夢を諦めない事の大切さを伝える活動をしています。

また、2010年4月より「より良くを求める社会」の実現に向けて、赤平にて「住宅に関するコスト1／10、食に関するコストを1／2、教育に関するコスト0」の実験を行う「ARCプロジェクト」を開始しました。

Copyright (C) 2011 Uematsu Electric Co.,Ltd.All Rights Resより

植松努氏に関するキーワード「どうせ無理」

僕たちがそうまでして、この宇宙開発をやっている理由はただひとつです。僕たちにとって宇宙開発は「手段」です。一番最初にも書いたように、僕たちの本当の目的は、宇宙開発を使って「どうせ無理」という言葉をこの世からなくすということなんです。

努力というものは、我慢ではありません。いやいやすることでもありません。憧れた結果、してしまうものです。憧れがなければ努力はできないんです。

最近、世の中が変ですね。知りたいもの、憧れるものがなくなってきました。そんな世界には何の輝きもありません。憧れることも、知りたいことも、みんなが簡単にあきらめてしまうようになってしまいました。

なぜこんな世界になってしまったのか、それは憧れが高望みだと言われるからです。そして自信がうめぼれだと言われるからです。そんな世界は間違っています。

「どうせ無理だ」といって自分の努力を放棄した人たちが、他の人の自信を奪い、努力を否定して、闇に突き落とします。だから、何度でも言います。「どうせ無理」という言葉は、この世からなくしたほうがいいんです。

(植松努『NASAより宇宙に近い町工場－僕らのロケットが飛んだ』

ディスカヴァー・トゥエンティワン2009年より)

植松努氏関連の主な書籍

- * 植松努著『NASAより宇宙に近い町工場－僕らのロケットが飛んだ』ディスカヴァー・トゥエンティワン2009年
- * 植松努共著『本調子 プロは逆境でこそ笑う 成功への糸口が見つかる思考法』総合法令出版2013年
- * 『DVD&ブック植松努の特別講演会 きみならできる！「夢」は僕らのロケットエンジン
－北海道の小さな町工場が“知恵”と“くふう”で「宇宙開発」に挑む』現代書林2009年
- * 『植松電機1「夢に向かって」植松努物語－「心を育てる」感動コミックVOL.7』インフィニティ2010年
- * 『宇宙兄弟－宇宙を舞台に活躍する人たち』講談社+α新書2012年